

担任の学級経営力の向上を目指した効果的なコンサルテーションの探求  
 - 若年教員の学級活動(1)の取組に対する支援を通して -

Exploring effective consultation for improving classroom management skill of homeroom teachers  
 - Support to efforts by a young teacher's classroom activities (1) -

池上 詠子

福岡教育大学教職大学院 / 大木町立木佐木小学校

脇田 哲郎

福岡教育大学教職実践講座

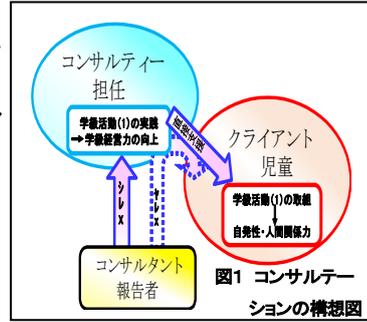
問題と目的

学級経営力とは、よりよい学習者や生活者に育て上げるために、人的および物的な環境を整備する学級担任の力量である。担任の学級経営力の向上は、**児童の自主性や人間関係の構築**に大きく影響する。特に、よりよい人間関係の構築には、**特別活動を基盤に据えた学級経営**が不可欠である(秋山, 2014)。本研究では、**学級担任の学級活動(1)の実践的指導力**(議題発見のさせ方や計画委員会への関わり方→話し合いや実践のさせ方→実践の振り返りのさせ方の指導)を**向上させるコンサルテーション**のあり方を究明した。

方法

- 【実施時期】 2017年12月～2018年4月  
 【対象】 福岡県内の公立小学校4年A組担任(経4年20代女性教諭)、実践群4年A組児童24名、統制群B組児童24名  
 【効果測定】  
 教師  
 ①学級経営に関するアンケート  
 ②聞き取り調査  
 ③コンサルテーション評価  
 児童(B組は④のみ実施)  
 ④学校環境適応感尺度 (ASSESS: 栗原・井上, 2016 版)  
 ⑤活動後振り返り用紙

「みんなが笑顔になる思い出集会をしよう」の議題発見や計画委員会への指導、学級会、実践、振り返りの各段階において担任に対するコンサルテーションを行うとともに、児童の自主性や人間関係形成力を間接的に育てる。  
 【1】アセスメントの段階→【2】対応の段階→【3】評価の段階(国立特別支援教育総合研究所)の3段階のコンサルテーションの経緯を評価。



コンサルテーションの実施

表1 コンサルテーションの経緯

	【1】アセスメントの段階	【2】対応の段階	【3】評価の段階
児童クライアント	11/18 ・学校環境適応感尺度事前④	2/8 ・アンケートと話し合い⑤	2/23 ・学校会後振り返り⑤ 3/2 ・係活動⑥ 3/9 ・学校会後振り返り⑤
担任コンサルティ	1/12 ・担任の児童の家庭環境⑦ ・学級会活動(議題発見)の事前準備⑧	2/15 ・議題発見の事後の振り返り⑨ ・学級会後振り返り⑤ ・「どうしてそんな結果になったと思うか」と問われて深く原因を考える機会となった⑩	3/28 ・実践全体の振り返り⑪ ・学級会後振り返り⑤ ・振り返り用紙の回収⑫ 4/10 ・振り返り用紙の回収⑫
報告者コンサルタン	・実践指導の仕方⑬ ・学年末の学級活動の振り返り⑭	・議題発見の事後の振り返り⑨ ・学級会後振り返り⑤ ・「どうしてそんな結果になったと思うか」と問われて深く原因を考える機会となった⑩	・実践全体の振り返り⑪ ・学級会後振り返り⑤ ・振り返り用紙の回収⑫ ・実践指導の振り返り⑮ ・学年末の学級活動の振り返り⑭

表2 コンサルテーションの内容・評価

段階	コンサルテーションの主な内容	報告者のコンサルテーションの評価や評価に基づく改善点	コンサルタンの姿勢
【1】アセスメント	議題選定・提案理由の立て方	(報告者の自己評価) ・一方的な助言で担任のニーズに応えず。 ・担任が捉えている児童の様子、どうしていきたいかの意志を十分に聞いた上で助言するべきだった。	報告者の一方的な指示 ↓ 担
【2】対応	学級会係活動集会の実施に関すること	・「担任としてはどうしたい?」「集会はどうだった?」などまず尋ねることからはじめた。 ・途中には助言を入れず、話をすべて聞いた後に、データなどを示して担任の捉えの的確さを伝えた。 ・担任は、児童のよさ、活動の課題点やその原因について冷静に分析。その後、解決策を共に話し合った。	担任に報告を受けながら良さや課題を共有・方針を協議 ← 担 報 →
【3】評価	本実践の振り返り・評価	担任は「今まで指示することが多かった自分が、議題や提案理由を子どもたちのものにして工夫し、活動を任せ、見守ることができた」と振り返り、担任として自己変容を認識。課題点に関しても教師側の問題として分析、自ら解決策を講じることができた。報告者は傾聴に徹し、自分でとらえることができたことを評価。第三者として校長も、「子ども達を見る目が優しくなった。表情が楽しそう。」と担任の変容を評価。	担任がとらえた児童のよさや課題について傾聴 ↑ 担 報

結果と考察

- 結果① 学級経営力アンケートの「子どもの自主的な行動がある」の項目は「やや思う」から「かなり思う」に上昇(図2)。  
 結果② 子どものよさを的確に捉える一方、児童のもめごとの原因が自身の不十分な支援にあったことに言及、改善策を自ら見出そうとするなど、学級経営力の向上につながる態度が身に付きつつある(上記 表2)。  
 結果③ 担任の自己変容に有効であったと思われるコンサルタンの言葉かけやかかわり(表3)。  
 結果④ ASSESSの対人的適応について、群(実践/統制)×時期(事前/事後)の2要因の分散分析(HAD 清水, 2016)を行ったところ、交互作用(F(1,142) = 17.75, p < 0.1)が有意であった(図3)。A組の児童は、対人的適応に示される人間関係力が高まったといえる。  
 結果⑤ 集会後、「自分達で活動を進められた」の項目が高い数値を示し、児童が自主性の高まりを自覚している(図4)。  
 【考察】 これらの結果、一連のコンサルテーションは、担任の自己変容と学級経営力の向上を促し、児童の自主性や人間関係力の向上にもつながったことから、一定の効果があったといえる。さらに、コンサルタントが担任の気づきに応じて、指示→共有・協議→傾聴と姿勢を変化させたことも、自己成長を促す大きな要因となった。今後の若手育成の大切な視点になるのではと考える。

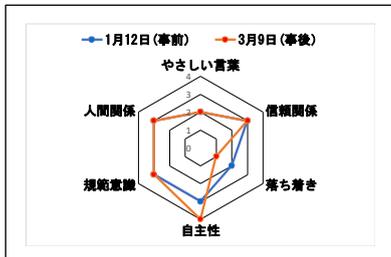


図2 学級経営力の6指標

表3 有効だったコンサルタンのかわり(質問紙及び聞き取り)

- ・「完璧にしようとしていいよ」と最初と言ってもらい、今までは管理的で、「よく見せよう」とする自分にとって、やりやすかった。
- ・自分が気づけなかった子どものよさを評価してもらい、ほめて任せることができた。
- ・「どうしてそんな結果になったと思うか」と問われて深く原因を考える機会となった。
- ・ゆっくり振り返る時間を一緒につくってもらい、自分の指導の姿を見つめなおせた。

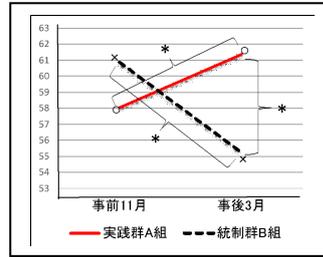


図3 アセスの対人的適応

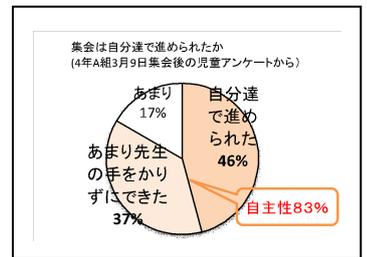


図4 児童の「自主性」の自覚